

加西市議会議長 土本昌幸 様

調査研究実施報告書

会 派 名 令和新風加西
代表者名 中 右 憲 利



下記のとおり行政視察を実施したので、報告いたします。

記

1. 調査年月日

令和2年1月21日(火)～23日(木)

2. 調 査 先

福岡県筑後市 福岡県古賀市 福岡県飯塚市 福岡県直方市

3. 参加者氏名

中右憲利、高見博道、北川克則

4. 研究目的及び内容

福岡県筑後市(1月21日(火)13:30～15:00)

定住促進の取り組みについて(詳細は別紙)

企画調整課 豊福課長

企画調整課 丸山地方創生担当係長

議会事務局 高松局長

福岡県古賀市(1月22日(水)10:00～11:30)

古賀市立千鳥児童センター「COSMOX」の運営、実施事業等について(詳細は別紙)

教育委員会青少年育成課 桐原課長

教育委員会青少年育成課 渋谷主幹

千鳥児童センターCOSMOX 芹野所長

福岡県飯塚市(1月22日(水)14:00～15:30)

小中一貫教育の推進について(詳細は別紙)

教育委員会学校教育課 小林課長

教育委員会学校教育課 岡松主任指導主事

教育委員会学校教育課 安河内指導主事

議会事務局 村上次長

議会事務局 今住書記

福岡県直方市(1月23日(木)10:00～11:30)

子育て応援リユース協働事業「りちゃいけ」について

教育委員会こども育成課 松崎家庭支援係長

㈱ふるさとカンパニー 高橋代表取締役

議会事務局 河村議事係長

5. 所感

各議員の所感は別紙のとおり

6. 添付書類

- (1) 視察行程表
- (2) 研修資料
- (3) 写真

福岡県筑後市（R2 年 1 月 21 日視察）

視察テーマ：定住促進の取り組みについて

①筑後市定住促進行動計画について

- ・第 4 次筑後市総合計画（マスタープラン H19-H28）において基本構想計画期間の中間年度（H23 年度末）の想定人口を 49,000 人、最終年度（平成 28 年度末）の想定人口を 50,000 人に設定。
- ・中間年度（H23 年度末）の人口予測が想定人口を下回る見込みとなったため、平成 24 年度からの総合計画後期計画において、定住促進を重要な取り組みとして推進。
- ・この第 4 次筑後市総合計画後期基本計画に基づき、人口増加を図るための基本的な方向性や方策を明らかにするため、市長をトップとする「市内定住促進委員会」、有識者等で構成する「定住促進行動計画推進会議」で検討を重ね、平成 25 年 3 月に筑後市定住促進行動計画を策定。

②計画の目標及び数値目標について

計画の目標

- ・目標年度（平成 28 年度末）に、人口 50,000 人又は県内人口シェア 1%以上を目指す。（福岡県の人口はおよそ 500 万人）

計画の数値目標

- ・筑後市における人口動態の地域性を、出生死亡で変動する自然動態、転入出で変動する社会動態に分け、更にそれぞれの要因（出生、転入、転出）ごとに分析し、その要因ごとの達成目標を設定。

③筑後市の現状について

人口推移

- ・平成 30 年度末の総人口は 49,173 人、近年は定住促進施策の効果もあり微増傾向にある。

筑後市の社会増減及び自然増減の変遷

- ・社会増減（転入者－転出者）は転入者が転出者を上回り続けていたが、平成 22 年からは均衡状態が続いた。しかし平成 26 年から再び転入超過が続いている。
- ・自然増減（出生数－死亡数）は、平成 22 年まで出生数が死亡数を上回り続けて自然増の傾向であったが、平成 23 年からは転じて死亡数が出生数を上回っている。

合計特殊出生率

- ・平成 25 年から平成 30 年までの筑後市の合計特殊出生率は 1.70 前後と高く、全国の 1.45 前後、福岡県の 1.50 前後を大きく上回っている。

④定住促進事業実施状況（抜粋）

婚活サポートセンター事業

- ・筑後市、八女市、広川町の 3 自治体で協議会を設置し、広域で事業運営を行っている。
- ・婚活イベントの企画、実行、会員の登録等は NPO 法人に委託、婚活イベントは年 10 回程度実施、個別お見合いは随時実施。
- ・平成 31 年度予算 1,839 千円（筑後市負担分） 登録会員数 224 人
- ・平成 30 年度分 婚活イベント開催 6 回 婚活イベント延参加者数 96 人 婚活イベントカップル数 17 組 お見合い申込件数 361 件 お見合件数 122 件 成婚件数 12 件（毎年 15 件程度とのこと）
- ・他自治体の類似する取り組みの中でも成婚率は突出して高い。お見合い件数も突出して高い。

新婚世帯家賃支援事業

- ・新たに婚姻し、市内の賃貸住宅に住む合計年齢が 80 歳未満の夫婦に対し、家賃から 4 万 4 千円を差し引いた額を、最長 36 ヶ月間支給する。支給額は月額 1 万円が上限。(4 万 4 千円は市営住宅の家賃を基準)
- ・平成 31 年度予算 20,544 千円 申請件数 (H25~H30 累計) 328 件
- ・人口動態への影響 転入促進 (市外→市内) 456 人 転出抑制 (市内→市内) 200 人 当事業が筑後市に住む決め手となった割合 90.1% (事業利用者アンケートより)

多子出産祝い金事業

- ・平成 25 年 4 月 1 日以降に生まれた第 3 子以降の子を養育し、その子の出生日より継続して 1 年以上定住している場合、祝い金を 10 万円給付。
- ・平成 31 年 4 月 1 日以降に生まれた子からは 5 万円に減額、その財源を活用し、平成 31 年 4 月から「不妊治療費助成事業」を開始した。
- ・平成 31 年度予算 9,000 千円 申請件数 (H25~H30) 427 件 人口動態への影響 出生促進 425 人

空き家バンク事業

- ・契約においては、地元の不動産協会に依頼し、専門的な視点で進めてもらっている。
- ・土地及び建物の利活用を促進するため、平成 26 年度より空き地も空き家バンク取り扱いの対象へ、また平成 29 年度より法人への売却や賃貸も可能とする要綱改正を行った。
- ・平成 26 年度より専門員 1 名 (一般非常勤職員) を配置後、成果が飛躍的に向上した。
- ・登録物件件数 142 件 登録利用者数 313 人 成約件数 60 件 (H24~H30 累計)
- ・人口動態への影響 転入促進 43 人 転出抑制 63 人

マイホーム取得支援事業

- ・市内に住宅を新築 (購入) した場合、建物の固定資産税相当額 (上限 15 万円) を 3 年間補助金支給。
- ・平成 29 年度より中古物件も対象とし、平成 30 年度より受益者の見直しを行い、転入者限定とした。
- ・H31 年度予算 29,512 千円 申請件数累計 902 件 人口動態への影響 転入促進 785 人 転出抑制 1,541 人 当事業が筑後市に住む決め手となった割合 48.94% (事業利用者アンケートより)

定住促進プロジェクト事業

- ・筑後市の住環境を PR するパンフレットの制作、有料広告等あらゆる手段を検討し実施する。
- ・PR 活動を意欲的に行ってきたところ、各種メディアから取材を受けることが増加。(月刊誌田舎暮らしの本、季刊誌 TURNS、韓国不動産経済 TV、月刊誌福岡経済、各種新聞社など)

ふるさと案内人事業

- ・地域おこし協力隊の制度を活用し、定住促進に寄与する企画立案、実行を行う。具体的には、地元住民を巻き込んだワークショップの実施、観光資源の PR、フェイスブック等を利用した情報発信。

素敵な出会い応援事業

- ・地域おこし協力隊の制度を活用し、若い世代の出会い創出や結婚応援及び都市部居住者が筑後市を知る機会創出を図り、地方創生の目的の一つでもある未婚化・晩婚化の解消等に寄与する。

⑤筑後市の定住促進事業の進め方

- ・まずそれぞれの事業による定住促進の効果を数値化する。(アンケート等)
- ・その数値を基にして毎年事業の評価を行い、費用対効果の悪い事業に関しては打ち切りを行い、他の事業に転換する。また効果が出ている事業に関してもさらに効果を高める方法を考える。
- ・毎年 PDCA をきちんと回して、効果の出ない事業をダラダラ続けることを防いでいる。今までにも、「中古住宅リフォーム補助事業」「筑後暮らし体験事業」「空き家物件視察見学事業」などは数年で打ち切られている。

福岡県古賀市（R2 年 1 月 22 日視察）

視察テーマ： 古賀市立千鳥児童センター「COSMOX」の運営、実施事業について

①概要

- ・0 歳～18 歳までの子どもたちが、自由に遊んだり、自主的な活動を行うための施設、古賀市に住んでいるか古賀市内の学校に通っている者、あるいは古賀市内に勤務している 18 歳以下の者が利用できる。古賀市が直営で運営（所管は教育委員会）、センター長、主幹他パートさん 6 名で運営している。

②施設

設備

- ・バスケットボールコート 1 面 音楽スタジオ 2 室 ダンススタジオ 多目的フロアー 和室 トイレ 駐車場

利用時間

- ・毎週火曜日～日曜日 10 時～20 時（小学生は 17 時まで、中高生は 20 時まで）

休館日

- ・毎週月曜日 祝日の振替休日 年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）

利用料金

- ・無料

③利用の仕方

- ・児童センターに来たら受付で利用カードを提出、帰るときはカードを持ち帰る。
- ・初めて利用する場合は、受付で利用カードを発行。
- ・遊び道具は、受付のカウンターで貸出、終わったら返却。（ボールなどの持ち込みは自由、但しまわりの人の迷惑になるもの、危険と思われるものは持ち込み不可）
- ・ボールや楽器を借りるときはカウンターで申請。
- ・音楽スタジオの利用は中学生から、ダンススタジオの利用は小学生もできる。音楽スタジオではキーボード・ドラム・ギター・ベースなどが利用できる。（要予約）

④乳幼児事業

乳幼児事業「ぽぽっと」

- ・漢字では「歩々人」、みんなが集まり、ゆっくりと歩み寄れるような空間・居場所となるような遊びの空間を提供。
- ・毎週木曜日と金曜日の 10 時から 14 時まで乳幼児が利用。遊び道具を用意しており、親子で自由に過ごすことが出来る。（食事可）

ぽぽっとあそびの日

- ・毎週水曜日の 10 時 30 分から 11 時 00 分まで絵本の読み聞かせやミニシアター、制作などの親子遊びを提供。11 時 00 分以降は、14 時まで乳幼児は親子でゆったりと過ごせる。（食事可）

音楽親子あそび「ぽこあぽこ」

- ・毎月 2 回、火曜日 10 時 30 分から 11 時 30 分まで、専門の音楽講師による音楽を使った親子あそび、リズムあそび、リトミックなどを行う。
- ・豊かな情操を体を通して育てる親子で楽しめる音楽あそび。「ぽこあぽこ」終了後、14 時までは親子で自由に過ごすことが出来る。（食事可）

⑤エンジョイ事業

- ・エンジョイ事業は、月に1～2回小学生を対象に、制作活動やゲーム・運動などを通した「豊かな体験」と「異年齢交流」を目的としている。

⑥学習支援事業

- ・夏休みの学習室の利用時間 10時から20時
- ・学習支援員の配置について→小中学生の宿題やテスト勉強など、個別に支援。
毎週日曜日14時から16時までの2時間、学習支援員が「苦手な勉強」を教える。(予約不要・無料)

⑦古賀市の児童館・児童センター事業について

事業概要

- ・児童館は18歳未満のすべての子どもを対象として、遊び及び生活の援助と地域における子育て支援を行い、子どもを心身ともに健やかに育成することを目的とした施設。
- ・古賀市では3中学校区すべてに児童館・児童センターを設置している。米多比児童館（古賀東中学校区）千鳥児童センター（古賀北中学校区）ししぶ児童センター（古賀中学校区）

児童館運営委員会

- ・児童館の適正な運営を図るため、児童館ごとに児童館運営委員会を設置し、委員は地域関係者、児童の健全育成に関し見識を有する者、学校関係者などで組織され、教育長が委嘱する。定例会は年に二回程度開催され、児童館の運営等に関して協議する。

平成30年度児童館来館状況

- ・米多比児童館 2,472名 千鳥児童センター7,230名 ししぶ児童センター8,123名
- ・月別では夏休みの期間中などの利用が多くなっている。

福岡県飯塚市（R2 年 1 月 22 日視察）

視察テーマ： 小中一貫教育の推進について

①小中一貫教育とは

- ・小中学校の教職員が同じ目標を持ち、一貫性・連続性のある指導を行い、義務教育 9 年間を通じて子供たちを育てていく教育→子供たちの連続的な学びと育ちを大切にした教育
- ・小中学生が協働する教育活動を実施することにより、お互いに関わり合い、高め合いながら伸びていく教育→子供たちの協働的な学びと育ちを大切にした教育

②平成 23 年当時の飯塚市の教育課題

- ・学習意欲の低下、不登校の問題→「中一ギャップ」
- ・学習内容が未定着なままでの進級・進学
- ・基本的生活習慣の未定着
- ・規範意識の低下→「校則への不適応等」
- ・将来の夢や希望を描けない子どもの増加

③課題解決の手段→義務教育 9 年間を一連の流れで見る指導が有効→「小中一貫教育」を導入

- ・一貫性と連続性のある学習指導や生徒指導
- ・小中の教師による乗り入れ授業
- ・小中の児童生徒が協働する活動
- ・将来への展望を育む指導
- ・小中教職員の児童生徒理解

④これまでの取組→小中一貫教育調査研究事業

- ・全中学校区（10 校区）を指定し、各中学校区で組織を作る。
- ・小中一貫教育を担当する「小中一貫教育コーディネーター」を指名し、小中一貫教育を推進。
- ・市教委主催の「小中一貫教育コーディネーター研修会」を年 2 回開催。
- ・9 年間の活動プランの作成→各中学校区に予算を配分

⑤飯塚市の小中一貫教育の理念

前期（小学 1 年生～小学 4 年生）

- ・自分や他の人のために自分ができることを一生懸命がんばる子ども。

中期（小学 5 年生～中学 1 年生）

- ・未来の自分や身近な社会のために主体的に活動することが出来る子ども。

後期（中学 2 年生～中学 3 年生）

- ・社会の一員としての役割を自覚し、志をもって自分の進路を選択できる子ども。

21 世紀を生きる子供たちの社会的・職業的自立に向けて必要な 3 つの資質・能力の育成

- ・地域とつながる→コミュニケーション能力（受け止める力、伝える力の育成）
- ・未来とつながる→コラボレーション能力（協働して共に創り上げる力の育成）
- ・世界とつながる→イノベーション能力（新たなものを生み出そうとする力の育成）

⑥飯塚市の小中一貫教育の現状

- ・施設一体型 4 校 施設隣接型 1 校 施設分離型 5 校
- ・施設隣接型、施設分離型小中一貫校に関しては、小学校、中学校に 1 人ずつ校長が存在し、小学校、中学校それぞれの入学式、卒業式もある。
- ・特に施設分離型校に関しては全体として一つの学校という意識は薄いかもしれない。
- ・将来全市的に施設一体型にするという構想はなく、地域の選択に任せているという状況。

⑦小中一貫教育の成果及び施設一体型のメリットとデメリット

小中一貫教育全体としての成果

- ・学力の向上 生徒指導上の諸問題の改善 モデル像の形成による自尊感情の向上
新しい学校文化の創造

施設一体型のメリット

- ・中一ギャップの解消（不登校の減少）
- ・相互乗り入れ授業の実施等で教職員間の交流が活発になる
- ・様々な異学年交流が可能（行事、部活動、学習ボランティア等）
- ・小・中合同での研修会 児童・生徒の自尊感情や学ぶ意欲の向上

施設一体型のデメリット

- ・小・中学校の節目がなくなり、新たな気持ちへの切り替えや進学に対する新鮮な気持ちがなくなる。
- ・小学校、中学校の組織文化、習慣の違いの調整に時間がかかる。
- ・各施設（体育館や特別教室等）の使用が重なる。

⑧未来とつながる

- ・変化の激しい時代を生き抜くために、基盤となる「基礎基本の学力の定着」や「思考力・判断力・表現力等」を育成する。また AI 化社会に備え「プログラミング教育」を推進している。
- ・プログラミング教育はソフトバンク及び地元大学と連携し、国に先立って進めている。
- ・多層指導モデル MIM（小学校入学期の「読みの力」を習得していく学習モデル。）
- ・徹底反復学習
- ・知識構成型ジグソー法による協調学習（東京大学 CoREF が提唱する、他者との対話を通して、自己の考えを深める学習法）

⑨世界とつながる

- ・グローバル化社会で活躍できる子ども達を育成するため、「コミュニケーションを重視した英語教育」、「国際教育」を推進している。
- ・オンライン英会話 フィリピンの子供とオンラインでつなぎ、小学校 5、6 年生がネイティブスピーカーからマンツーマンで指導を受ける。授業のはじめと終わりは担任が指導、実質 20～25 分程度。年間 25 時間、業者委託、年間 5000 万程度の費用
- ・ヤングアメリカンズの指導 音楽やダンスを通じた教育や公演を行っているアメリカの非営利団体（平成 30 年度は 2 校で実施）

⑩地域とつながる

- ・やさしさと温かさのあふれるまちづくりに向け、「地域とともにある学校づくり」を推進している。
- ・コミュニティ・スクール（地域住民が学校運営に参画できるようにする仕組みや考え方を有する形態の学校）の推進。学校開放日（年 2 回）職業体験学習の実施。

福岡県直方市（R2 年 1 月 23 日視察）

視察テーマ： 子育て応援リユース協働事業「りちゃいけ」について

①目的及び経緯

目的

- ・家庭において不要となった子育てに関する物品（リユース品）の情報交換、譲渡し及び譲受けの場を提供することで、資源の有効活用の促進、循環型社会の構築及び廃棄物の発生抑制並びに子育て世代の支援を図る。

経緯

- ・平成 25 年度から実施、当初は環境業務課が所管。場所は環境業務課敷地内に開設、ボランティアスタッフにより運営。
- ・平成 29 年度から、教育委員会こども育成課に移管。場所も現在の健康福祉課別館に移転、事業委託になり民間事業者により運営。（公設民営）

②「りちゃいけ」とは

- ・リユース・チャイルド・ケア (Reuse child care) ⇒りちゃいけ
- ・家庭で不要になった子育て用品（衣類やおもちゃなど）を無償で受け入れ、提供する。
- ・子育て関連用品の再使用事業。

③事業概要

開催日時等

- ・原則として毎週月曜日と木曜日及び毎月第 2 日曜日に開場
- ・時間は 10 時から 14 時まで
- ・場所は健康福祉課別館 1 階

取扱品

☆本事業の対象となるリユース品

- ・ベビー用品 ベッド・ベビーカー・ベビー布団等
- ・キッズ用品 衣類・三輪車等
- ・おもちゃ・自転車・学習机
- ・マタニティ用品・出産準備品
- ・学用品（学校の制服については民間事業者がリユース事業をしているので取り扱っていない）

☆次に掲げるものは取り扱わない

- ・歯固め、哺乳瓶の口等の口に含むもの
- ・ぬいぐるみ等の毛の立っているもの
- ・肌着など直接肌に触れるもの
- ・食品及び薬品（保存食や未開封のものを含む）
- ・汚れや破損があり再利用できないもの
- ・公序良俗に反するもの

④平成 30 年度実績

商品カテゴリ別持込数量

- ・大型品 254 学用品 166 日用品 258 衣類 10,889 知育・玩具 3,472 その他 399 合計 15,438

商品カテゴリ別譲渡数量

- ・大型品 246 学用品 277 日用品 274 衣類 10,670 知育・玩具 2,883 その他 352 合計 14,702

年代カテゴリ別持込数量

- ・ベビー7,107 キッズ 6,879 ジュニア 1,203 マタニティ 249 合計 15,438

年代カテゴリ別譲渡数量

- ・ベビー6,835 キッズ 6,374 ジュニア 1,281 マタニティ 212 合計 14,702

⑤実績比較

平成 25 年度

- ・来客者 800 人 登録者 316 人 持込人数 — 持込点数 3,654 点 譲渡人数 — 譲渡点数 2,876 点

平成 26 年度

- ・来客者 2,318 人 登録者 361 人 持込人数 567 人 持込点数 8,683 点 譲渡人数 931 人 譲渡点数 7,263 点

⑥「りちゃいけ」利用等について

利用対象者

- ・直方市に居住する者で、かつ、営利を目的としない者。但し直方市外に居住する者であっても、市内の保育園及び学校へ通園及び通学しているものの保護者並びに市内の事業所に通勤しているもの。

利用手続き

- ・りちゃいけメンバー登録申請書に必要事項を記入し、市長の発行するりちゃいけメンバーズカードを受け取る。
- ・利用者がりちゃいけを利用するときはメンバーズカードを提示する。

持込み

- ・リユース品の持ち込みを希望する者は、りちゃいけ持込み申込書にリユース品を添えて提出する。
- ・持ち込まれたリユース品は、申し込み日から最長で半年間展示し、期間を過ぎたものは、直方市がリサイクル品として処理するものとする。

譲受け

- ・リユース品の譲受けを希望する者は、りちゃいけ譲受け申込書を提出する。

⑦その他

- ・同じものを何度も譲受しようとする利用者等に関しては、声かけを行って転売行為を防止するよう努めている。
- ・場所が狭いので、カサの高いもの等は倉庫に保管しており、希望者にはスタッフがカギを開けて入ってもらうようにしている。
- ・無料での譲渡しということで、特にクレームなどはないということ。

〔所感〕 中右憲利

【福岡県筑後市】 定住促進の取り組みについて

- ・定住促進事業としては加西市がやっていることとあまり変わりはない。
- ・全国的な人口減少時代に人口が横ばいあるいは微増という状況も、JR で福岡市まで 1 時間で行ける交通の便、ソフトバンクホークスの 2 軍、3 軍の本拠地球場があるという環境を考えると当然と思うかもしれない。
- ・しかし、同じような人口増施策であっても非常に効果的に運用されていると感じた。
- ・一つ一つの施策の効果を、アンケート等も用いて数値化して年に一回きちんと評価をし、継続するかどうか、継続するにしても何かを変える必要があるか、あるいは廃止して違う施策に転換するかをきちんと決めている。まさに PDCA を確実に回して費用対効果をあげている。
- ・例としては、「空き家バンク事業」は平成 26 年に非常勤の専門員を配置してから飛躍的に成果が上がっている。「多子出産祝い金」は 10 万円だったが、検討の結果昨年からは半分の 5 万円にし、その財源を利用して「不妊治療費助成事業」を開始した。
- ・一方「中古住宅リフォーム補助事業」「筑後暮らし体験事業」「空き家物件視察見学事業」など、どこの自治体でも実施しているような事業ではあるが、効果がないとして数年で打ち切られている。
- ・お見合い事業での成婚件数も年間 15 件程度あるということで、大変成婚率が高いが、成婚後の住居等情報もきちんと把握されているとのことだった。
- ・筑後市さんからは逆に、「加西市大学生等遠距離通学定期券購入補助制度」について、その状況と今後も続けるのかどうかという質問を受けた。定住促進施策に対して大変どん欲に取り組んでおられるという印象を受けた。

【福岡県古賀市】 古賀市立千鳥児童センター「COSMOX」の運営、実施事業について

- ・0 歳から 18 歳までの子どもたちが集う児童館。乳幼児は 10 時から 14 時まで、小中高生は 14 時からの使用となっている。
- ・乳幼児のためには様々な遊びが用意され、親子でゆったりと過ごせるスペースも用意されているので、お母さん方の情報交換・親子の交流の場となっていると思う。
- ・音楽スタジオ・ダンススタジオ・バスケットコート等の施設は、子供たちのグループでの練習、あるいは異年齢での遊びの場となっていて、学校とはまた違った社会性が身につけ、技術を磨ける場になっていると思う。
- ・学習室については基本的には自習室だが、毎週日曜日 14 時から 16 時までの 2 時間は学習支援員が小中学生に「苦手な勉強」を教えてくれるということで、子供たちにとっては大変ありがたい事業だと思う。
- ・加西市にはこのような異年齢の大勢の子供たちが集える場所がないと思う。市内各地から乳幼児をつれて親子で集まったり、小学生から高校生までの子どもたちが、近所の迷惑を気にせずに音楽の練習が出来たり、ダンスの練習が出来たり、バスケット・卓球等で汗を流せる、また学習支援も行っている、そういう子育て支援の拠点が必要だと思う。
- ・平成 27 年作成の地域創生戦略アクションプランで「未来型児童館の整備」を重要施策としてあげられているが、ぜひ実現してもらいたい。

【福岡県飯塚市】 小中一貫教育の推進について

- ・小中一貫教育という形で全体をまとめてあるが、実質は地域によってばらつきがある。
- ・施設一体型は校長も一人で、完全な統合型小中一貫校（4校）
- ・施設隣接型、施設分離型は小学校、中学校に一人ずつ校長がいて、それぞれの入学式、卒業式もある。学校としての一体感も薄いということで、どちらかという中学校校区での連携型教育という印象。
- ・ただ、飯塚市としては全体を施設一体型小中一貫校にする構想はなく、地域に選択を任せて、それぞれの形で小中一貫教育を進め、教育水準を高めている。いい選択だと思う。
- ・世界とつながる教育という面では、フィリピンのセブ島とオンラインでつないで、市内すべての小学5、6年生が年25時間、ネイティブスピーカーにマンツーマンの指導を受けている。英語を話し、聞くことの基礎を身に付ける素晴らしい取り組みだと思う。
- ・また、アメリカの非営利団体ヤングアメリカンズに音楽やダンスの指導を受けるということも、外国人と英語で交流する得難い機会を子供たちに与えていると思う。
- ・未来とつながる教育という面では、ソフトバンクや近隣大学と提携してプログラミング教育を国に先んじて行っている。これからの社会で必要とされるスキルを身に付けるという点で素晴らしい取組と思う。
- ・地域とつながる教育という面では、コミュニティスクールの推進をしている。
- ・学校が市長や教育委員会の意のままに動かされるのではなく、地域住民が学校運営に深くかかわれるようにすることで「地域とともにある学校づくり」を推進している。
- ・加西市でも学校の形は将来的に変わっていくと思うが、それは地域住民が深くかかわり、住民が望む形での変化であってほしい。

【福岡県直方市】 子育て応援リユース協働事業「りちゃいけ」について

- ・もともとは環境業務課の所管で、ごみの減量化を推進する事業の一環であったとのこと。
- ・循環型社会の構築及び廃棄物の発生抑制並びに子育て世代の支援を図る事業ということで、市として費用はかかるが効果としては素晴らしいものがある。
- ・ベビー・キッズ・ジュニア・マタニティ用品は、比較的短期間しか使わないので、使いまわしが可能、それを市が事業として仲介するもの。
- ・年々、利用者（持込み、譲受け）が増えてスペースが足りなくなるという。
- ・最近リサイクルショップが増えてきているので、民業圧迫というクレームが出ているのかと思ったが、そういうこともないらしい。案外「りちゃいけ」で扱っているようなものは商売としてはあまり重要なものではないのかもしれない。
- ・現在は業者に委託して公設民営という形になっている。委託業者はほとんどボランティアのようなものという認識だったと思う。
- ・店内には子供を背負ったお母さん方がスタッフとして働いておられて、少数ではあるが子育て世代のお母さん方の雇用場になっているとも感じた。
- ・ゴミを減らし、子育て世帯の出費も減らし、循環型社会の構築にも寄与し、また雇用も増やしている大変いい取り組みだと思った。

◇福岡県筑後市 【定住促進の取り組みについて】

第四次筑後市総合計画後期計画において、定住促進を重要な取り組みとして推進する中で、ただ人口が増えればいいのではなく、新婚世帯が増え、出生率を上げることで将来の世代が増えることが重要であるという点に目を付けた点は注目したい。

結婚サポート事業は筑後市、八女市、広川町の 3 自治体で協議会を設置して近隣の自治体とも協力して行っている点は加西市でも近隣自治体と連携を取って行ってもいいと感じた。

新婚世帯家賃支援事業、多子出産祝い金事業、また途中から多子出産祝い金事業を減額して不妊治療費助成事業を開始しているところは、現在の出産の状況に合わせていて素晴らしいと感じた。

また、空家バンク事業は、中古住宅を利活用することによる老朽危険家屋対策として、国県も注目しているとのこと、市の担当職員に宅建の資格を持っている専門員を配置して素早い対応ができる点は加西市にも必要かと感じた。

◇福岡県古賀市 【古賀市立千鳥児童センター「COSMOX（コスモックス）」の運営、実施事業等について】

児童センターの運営において、利用者を古賀市内に居住または通学・通勤する 18 歳未満の者（乳幼児にあつては、保護者が同伴するものに限る）として、登録制にして安全対策をしているところは安心して利用できると感じた。

また、乳幼児の利用時間帯と小中高生の利用時間を分けることにより館内での安全対策にもなっている点もいいと感じた。

年間に小中高交流事業などいろいろな行事も計画されているが、ここで育った子供たちが今度はスタッフとして協力しているところは地域に根付いた施設なのだと感じた。

利用にあたっては、ごみは各自持って帰る、使用した部屋は利用者で掃除片付けをするなどしっかりとした決め事をするので長く運営が続いていると感じた。

加西市にもこのような施設がぜひ必要だと感じた。

◇福岡県飯塚市 【小中一貫教育の推進について】

飯塚市の小中一貫教育は、施設一体型、施設隣接型、施設分離型、この3つに分かれていて、市内すべての小中学校が同じかたちでは行われていない。

施設一体型は、統廃合に伴い小中学校が1校になっているが、その他の形は小中学校そのまま教育活動プランとして連携させている。

どの形でも、小中の9年間で教育活動プランとして、前期（小1～小4）＝4年間、中期（小5～中1）＝3年間、後期（中2～中3）＝2年間になっている。3つに分けるときに3年ごとにしてしまいそうだがそこをこのように分けている点は感心した。

また、この変化の激しい時代を生き抜くためにプログラミング教育やオンライン英会話教室などを行っている点は加西市でも検討していいと思った。

加西市でも行われているが、地域との交流、海外への研修などいろいろな経験を子供たちに提供している点は加西市も今以上に行ってほしいと感じた。

◇福岡県直方市 【子育て応援リユース協働事業「リちゃいけ」について】

子育ての時期にしか必要ない用品のリユースをすることにより、子育て費用を抑え粗大ごみ処理費用を抑制できること、両面に活用できる注目したい仕組みだと思った。

また、物品の整理、スタッフの問題、どれだけ周知か、転売問題など事業の運営は大変だと思われたが、SNSを活用したり、利用者とコミュニケーションをとることなど経験を積む中で、利用者がスタッフになっていたり地域とともに協力をしあうことで毎年実績が伸びているところは注目したい。

再利用だけでなく、再々利用される方がいる点など、必要とされている事業であると思えた。

〔所感〕 北川克則

【福岡県筑後市】定住促進の取り組みについて

筑後市では、人口予想が想定人口を下回った平成 27 年より、定住促進を重要な取り組みとして戦略的に推進されています。全国的な人口減少のさなか、自然減を 29～35 歳の転入増でカバーし、ほとんど減少していません。下記に特徴などを紹介させていただきます。（現在の人口は、加西市の約 1.1 倍）

- ① 「元気な筑後市創造戦略」の中に「定住促進計画」を重要課題と位置づけ、一定の予算のもとに継続して取り組まれている。（H27～31 年度の主な定住促進事業予算：48,217,000～72,870,000 円）
- ② 短期的に「転入者の増加」を数値目標とし、特に結婚定住にターゲットを絞り込んだプロジェクトを多数実施されている。
- ③ 「新婚世帯家賃支援事業」「マイホーム取得支援事業」の成果が大きく、対象範囲を拡大し継続されているが、「暮らし体験事業」「空き家物件視察見学事業」の成果は小さいので廃止されている。
- ④ 空き家バンク事業は一度廃止しましたが、「空き家」だけでなく「空き地」も紹介し、地元の不動産協会による専門相談員を配置して、事業のリニューアルをされていた。
- ⑤ 結婚定住促進や子育て支援も然ることながら、「すぐにでも住んでみたくなる都市」として、PR やイメージ戦略にも取り組まれている。（サイト開設運営・セミナー開催・広告等）
- ⑥ 広告効果分析と事業検証を毎年行い、事業の「スクラップ&ビルト&リニューアル」をされている。
 - ※ 加西市に於いては、各種支援事業の充実継続を図ると共に、PR やイベント事業は、一定の予算の中で継続しながら、中身を見直しすることが予算の有効活用と感じました。
 - ※ 商工観光促進事業とのコラボレーションにより、集客シーンでの広告が効果的と感じました。
 - ※ 定住の動機（定住・子育て支援内容）情報は、ターゲット（新婚者・転勤者）に知って頂くことが重要です。SNS や QR コードを活用した誘導 PR や、企業総務課への PR など、ニーズへの継続したアプローチと共に、不動産業界との連携による転入フォローも大切と感じました。

【福岡県古賀市】古賀市立千鳥児童センター「COSMOX」の運営、実施事業等について

今回視察をさせて頂いた施設は、市内に 3 つある施設のうち、住宅街にある平屋建ての施設で、加西市の小学校区の幼保園程度の規模の児童センターです。保育士 4 名で運営されていて、年間利用者数は 8,000 名を超えています。下記に特徴などを紹介させていただきます。

- ① 年齢別に利用時間を分けてスペースを有効活用されています。10～14 時はゼロ歳児から小学生未満の子育て支援タイムとし、14～20 時は青少年育成タイムとして、利用時間を分けている。14 時に、フリースペースは卓球台を出し、和室は備品を変更して、スペースの模様替えをされています。
- ② 毎週 2 回の乳幼児対象事業と毎月数回のエンジョイ事業が実施されています。事業が充実しているので利用機会が多いのと、年間スケジュールがあるので利用者が分かりやすい。
- ③ エンジョイ事業の運営では、利用者の OB（19 歳以上）にスタッフで参加して頂き、年の近い先輩との繋がりを大切にされ、活動の促進に繋げている。
- ④ 飲食が出来て（時間とスペースは限定）、乳幼児向けの装飾や、手作りの案内 POP や、漫画本の図書コーナーが、自由でアットホームな雰囲気でした。
 - ※ 決して大きくない施設ですが、スペースを有効活用されていました。また、郊外の児童センターは、自治組織の公民館を再利用されていました。補助金を活用した近代型児童館の新設もありますが、空き施設を再利用することや、活動の促進を工夫するなど、サービスの更なる充実の可能性を気付かせて頂きました。
 - ※ 市内 3 か所施設には、音楽設備や体育施設や立地などに差がありますが、定期的に連携事業を行うことにより、活動の補完を学ばせて頂きました。

【福岡県飯塚市】小中一貫教育の推進について

「少子化」「中一ギャップ」「子供の発達の早期化」などの課題への対応策と、小中 9 年間を連続した学びの場として、小中一貫教育を進められています。下記に特徴などを紹介させていただきます。

- ① 少子化による小中学校統廃合を基本として捉えるのではなく、小中の 9 年間を連続した教育環境として小中一貫教育推進に取り組まれている。
- ② 課題に向けた取り組みは、9 年間を 3 期（前期 4 年間・中期 3 年間・後期 2 年間）に分けて、連続した指導プランが策定されている。
- ③ 中学校区を 1 つのエリアに指定し、地域性や立地を考慮して、「施設一体型」「施設隣接型」「施設分離型」の 3 種類の小中一貫教育を運営されている。
- ④ 効果としては、学力の向上は然ることながら、校内問題が減っている。特に不登校は、飛躍的に減っている。（小中学生が互いに関わり合い「手本」となる指導をされている。）

※ 小中一貫教育の実現に、施設統合だけでなく、隣接型や分離型による実施が参考になりました。

※ 各施設（体育館や特別教室等）の使用が重ることや、小学校、中学校の組織文化、習慣の違いの調整に時間がかかるなどのデメリットはあるが、中一ギャップの解消（不登校の減少）や、教職員間の交流が活発になることや、異学年交流（行事、部活動、学習ボランティア等）が可能という、メリットがとても大きいことを学ばせて頂きました。

※ 「施設一体型」に比べて、「隣接・分離型」は、各施設（体育館や特別教室等）の割り振りがしやすいメリットもあると教えて頂きました。

※ 「世界にはばたく子どもの育成」を目指して、コミュニケーションを重視した英語教育を推進されています。全学校への英会話教員の配置が困難だった為に、企業と連携協定を結び、セブ島の外国人スタッフとオンラインでネイティブイングリッシュを体験できる「オンライン英語教育」を導入されています。

〔参考〕1 人当たりの年間実施時間：25 時間＝1 回約 25 分間×60 回

1 人当たりの年間コスト：1 万円＝@400×25 時間

企業との連携やオンラインによる実施により、低コストでの実現の可能性を見出せました。

【福岡県直方市（のおがたし）】子育て応援リユース協働事業「りちゃいけ」について

「ごみの減量化」と「子育て支援」を目指して、子育て用品に限定したリユース事業を、民間の NPO 法人と協働で運営されています。リユース事業から始まり、発足当時はボランティアスタッフで運営されていましたが、スタッフ確保や事業の効率化を図る為に、民間団体に委託して協働事業として持続されています。（無償持ち込み・無償提供）下記に特徴などを紹介させていただきます。

- ① 子育て用品のリユースに限定して事業を効率的に運営されている。

リサイクル事業は、人件費がかかるのと用品の安全確保が困難なので、リユース事業に限定されています。また、リユース事業は、在庫と展示のスペースが沢山必要なので、子育て用品に限定され、子育て支援に特化されている。

- ② 公共施設の空きスペースを有効活用されている。

- ③ 民間委託することで、運営の持続と利用者拡大に繋がっている。

安定した専門スタッフの確保により作業能力をアップし、子育て世代のママさんアルバイト採用により、雇用促進と、SNS や口コミでの利用者拡大に繋がっている。

また、委託先の団体主宰者がネット事業者なので、ネット広告に長けているのと、商品予約システムにより、商品サイクルがスムーズです。（在庫スペースが少なく済む。）

※ 最小予算で効果拡大。加西市でも出来るノウハウのヒントを学ばせて頂きました。 以上

令和新風加西 行政視察 行程表

1月21日（火）

08：33 姫路駅発（さくら 547 号）
10：56 久留米駅着〔乗り換え〕
11：14 久留米駅発（JR 鹿児島本線）
11：25 羽犬塚駅着
13：30～15：00 ◎筑後市視察「定住促進の取り組みについて」
15：55 羽犬塚駅発（JR 鹿児島本線）
16：06 久留米駅着
16：10 久留米駅発（JR 鹿児島本線）
16：45 博多駅着
◆宿泊〔福岡市内〕

1月22日（水）

08：54 博多駅発（JR 鹿児島本線）
09：26 千鳥駅着
10：00～11：30 ◎古賀市視察「古賀市立千鳥児童センター「COSMOX」の運営、実施事業等について」 ※千鳥児童センターで実施
12：32 千鳥駅発（JR 鹿児島本線）
12：58 吉塚駅着
13：04 吉塚駅発（JR 鹿児島本線）
13：44 新飯塚駅着
14：00～15：30 ◎飯塚市視察「小中一貫教育の推進について」
◆宿泊〔飯塚市内〕

1月23日（木）

09：14 新飯塚駅発（JR 福北ゆたか線）
09：30 直方駅着
10：00～11：30 ◎直方市視察「子育て応援リユース協働事業「りちゃいけ」について」 ※りちゃいけで実施
12：35 直方駅発（JR 福北ゆたか線）
12：55 折尾駅着
13：18 折尾駅発（JR 鹿児島本線）
13：46 小倉駅着
13：53 小倉駅発（のぞみ 34 号）
14：38 広島駅着
14：53 広島駅発（のぞみ 134 号）
15：49 姫路駅着

筑後市



古賀市



飯塚市



直方市

